1303 E581

同時給排 レンジフード 取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

※ 機種により多少デザインが異なる場合があります。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の２つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと（使用禁止）
  火災・感電の原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと（埋込禁止）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  火災などの原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 製品とダクトは、可燃物との間を10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- アースを確実に取り付けること（アースを取り付ける）
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること（取付注意）
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

⚠ 注 意

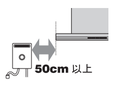
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）（使用禁止）
  感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと（取付禁止）
  火災・故障の原因になります
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと（接触禁止）
  けがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 作業は２人以上でおこなうこと（取扱注意）
  製品は 36kg の重さがあります

取り付け上のお願い

- **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
  - **・大工工事【設置のための下地工事等】**
  - **・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
  - **・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**

  流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」･「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
  調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm になるようにしてください。

- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm2 程度の空気取入口を設けてください。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので排気ダクト･給気ダクトには断熱材を巻くなどの対応をしてください。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと（埋込禁止）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  火災などの原因になります
- 製品とダクトは、可燃物との間を10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火するおそれがあります

⚠ 注 意

- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと（取付禁止）
  火災・故障の原因になります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

1 取付箇所の強度確認

製品を支える強さが必要です。

製品質量	36 kg

2 天井面への穴あけ（取付詳細図－１）

1）天井面の本体を取り付ける位置に間口 460mm×奥行 320mm の開口をあけてください。

2）開口部周辺を補強桟で補強してください。
※補強桟は、野縁・野縁受け等に固定してください。

3 吊りボルトの取り付け（取付詳細図－２）

本体の吊りボルト位置に合わせて、吊りボルトを垂らしてください。
※吊りボルトは、M10 ～ 12 を用いてください。
※吊りボルトは製品を支える十分な強さを確保してください。必要となる強度は、建物の条件、耐震クラスなどにより異なります。

4 給気・排気ダクトの取り出し（取付詳細図－２）

φ 150 のスパイラルダクトを、取付詳細図－２の位置に取り出してください。

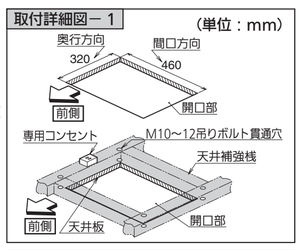
5 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、製品の下端まで80cm です。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

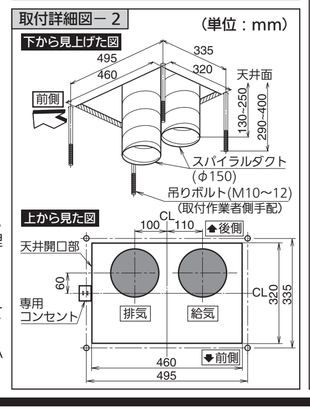
6 電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

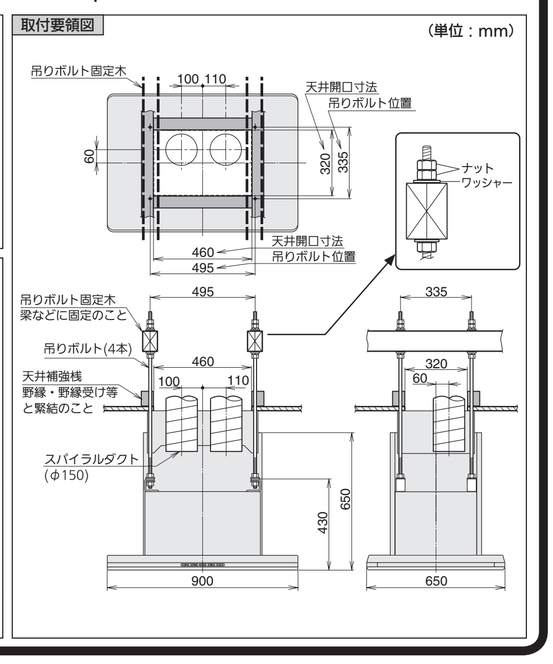
取付詳細図－１（単位：mm）



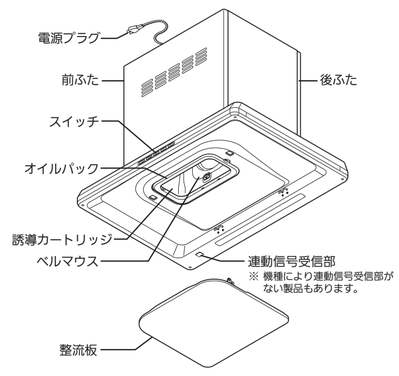
取付詳細図－２（単位：mm）



取付要領図（単位：mm）



各部のなまえ

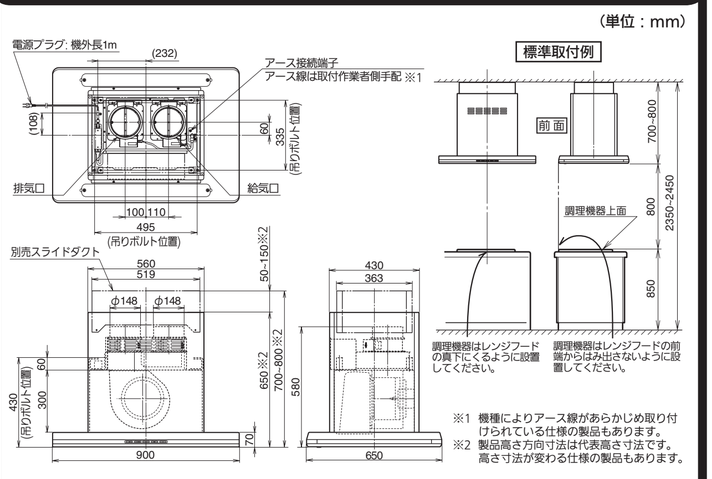


付属品

ソフトテープ　２本
給気口・排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

製品寸法図

（単位：mm）



※1 機種によりアース線があらかじめ取り付けられている仕様の製品もあります。
※2 製品高さ方向寸法は代表高さ寸法です。高さ寸法が変わる仕様の製品もあります。

取付かた

1．付属品の確認

⚠ 注 意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 作業は２人以上でおこなうこと（取扱注意）
  製品は 36kg の重さがあります

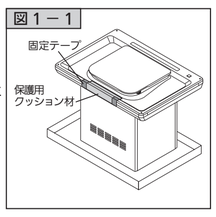
付属品を確認します。

梱包箱から付属品のソフトテープを取り出します。

お願い

- 保護用のクッション材と固定用テープはキズ、破損防止のため、「６．試運転」まではずさないでください。（図１－１）
- 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

図１－１



2．取付準備

⚠ 警 告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  火災などの原因になります
- 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠ 注 意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）（使用禁止）
  感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと（取付禁止）
  火災・故障の原因になります

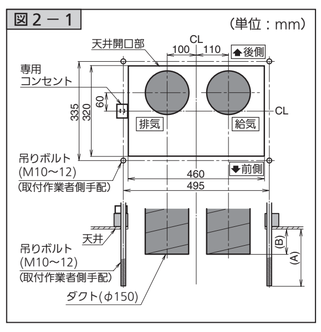
1 事前に管工事業者（法的有資格者）へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。（図２－１）

また、天井開口部近くの補強桟または野縁等に専用コンセントを設置します。

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。（図２－１）

3 M10 ～ 12 の吊りボルト（取付作業者側手配）を４本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。
固定ピッチは前後 335mm、左右 495mm です。（図２－１）

図２－１（単位：mm）



お願い

天井面からの吊りボルトの突き出し長さ（A）およびダクトの突き出し長さ（B）は、製品総高さ（範囲：700 ～ 800mm）により異なります。製品寸法図を参考にして、次式により算出してください。

吊りボルトの突き出し長さ（A）＝「製品総高さ」－ 410

ダクトの突き出し長さ（B）＝「製品総高さ」－ 560

例）

製品総高さ	吊りボルトの突き出し長さ (A)	ダクトの突き出し長さ (B)
700	290（＋ 10）まで	140（± 10）
750	340（＋ 10）まで	190（± 10）
800	390（＋ 10）まで	240（± 10）

※「製品総高さ」寸法は、「スライドダクト（別売部品）」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。

3．本体の準備

お願い

- はずしたねじは取り付けの際に使用しますのでなくさないでください。
- 整流板・オイルパック・ベルマウスを固定しているクッション・固定テープは各作業で取り除いてください。

1 整流板をはずします。

1）整流板の固定クッションをはずさずに整流板を両手で支え、少し押し下げるようにして整流板の左右にあるストッパーを押してはずします（図３－１ **1** ）。

2）整流板を両手で支えながら、上へゆっくり持ち上げます（図３－１ **2** ）。

3）整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊り金具からはずします。（図３－２）
※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

4）整流板の固定用クッションをはずします。
※整流板の固定パットを先にはずすと、キズの原因になります。

図３－１

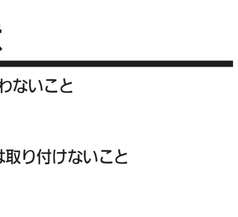


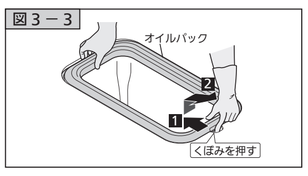
図３－２

2 オイルパックをはずします。（図３－３）

1）オイルパックを両手で支えながらくぼみに指をかけ、矢印の方向に押し込みます（ **1** ）。

2）押し込みながらくぼみの側を少し引き上げ、くぼみのある側に引き出します（ **2** ）。

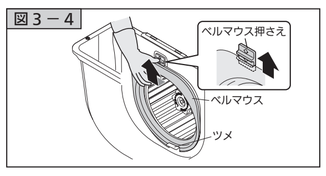
図３－３



3 ベルマウスをはずします。（図３－４）

ベルマウスを持ち、ベルマウス押さえを上にスライドさせて、手前上方に引き出します。

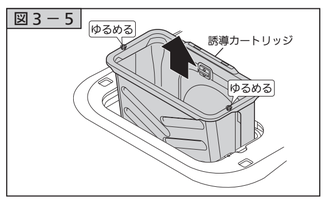
図３－４



4 誘導カートリッジをはずします。（図３－５）

誘導カートリッジを固定している取付ねじ２本をゆるめ、上へ引き出します。
※ねじは誘導カートリッジからはずれません。
※誘導カートリッジはキズをつけないよう、ゆっくりと引き出してください。

図３－５



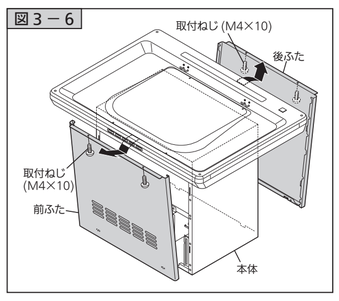
5 前ふた・後ふたをはずします。（図３－６）

前ふた・後ふたを固定している取付ねじ（M4 × 10）各２本をはずし、取付ねじ側を手前に引いてからふたを持ち上げて下側の引掛け部を本体からはずします。

お願い

前ふたをはずす際は、フード天板部にキズをつけないように注意してはずしてください。

図３－６



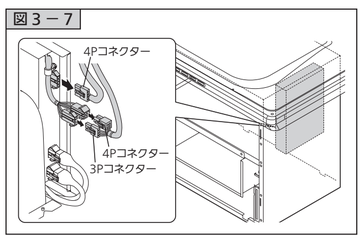
6 コネクターをはずします。（図３－７）

電気配線のコネクター３ヶ所をはずします。

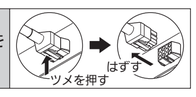
お願い

- 指示箇所以外のコネクターはずさないでください。
- コネクターをはずす際はコネクター部分を持ち、ツメを押しながら抜いてください。（コードを持って引き抜かないでください。）

図３－７



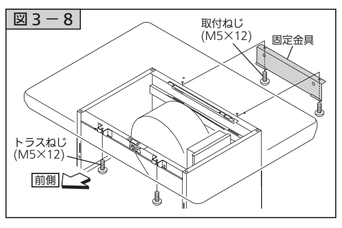
コネクターをはずす場合



7 フードをはずします。

1）前側のトラスねじ（M5 × 12）２本をはずし、次に後側のトラスねじ（M5 × 12）２本をはずして、フードと本体を固定している固定金具をはずします。（図３－８）

図３－８

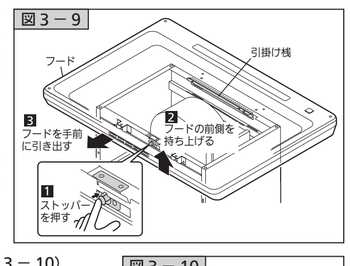


2）前側のストッパーを押し、フード前側を少し持ち上げてから手前に引き出します。（後側はフードの引掛け桟が本体に引っ掛かっています。）（図３－９）

お願い

フードをはずす際は、フード天板部にキズをつけないように注意してはずしてください。

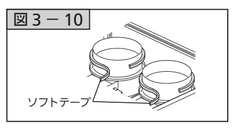
図３－９



8 ソフトテープを貼り付けます。（図３－10）

本体を上下に 180°回転させ、給気口および排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。

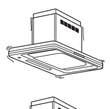
図３－10



4．本体の取り付け

⚠ 注 意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと（取付注意）
  落下により、けがをするおそれがあります



- 部品の取り付けは確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

1 レンジフードの固定位置を決めます。（図４－１）

1）右図を参照し、次式によりマーカー位置（X）の値を算出してください。

X ＝「製品総高さ」－ 430

※「製品総高さ」寸法は、「スライドダクト（別売部品）」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。

例：製品取付高さが 1650mm、天井高さが 2350mm の場合（製品総高さ＝ 700mm）：

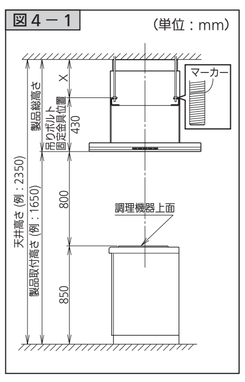
X ＝ 700 － 430

天井からのマーカー位置（X）は 270mm となります。

※マーカー位置が 220mm より小さい場合は取り付けできません。その場合は製品特注にて対応可能な場合がありますので、販売店にご相談ください。

2）吊りボルトにマジックペンなどで、天井から X の値の位置にマーカーをつけます。

図４－１（単位：mm）



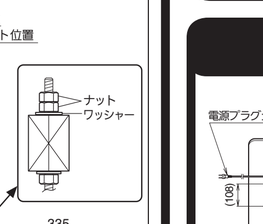
2 スライドダクト（別売部品）を取り付けます。（図４－２）

スライドダクトをスライドダクトに付属の座付ねじ（φ 4.5 × 45）４本で天井面に固定します。

お願い

切り欠きのある面をレンジフードの前後方向にしてください。向きを間違えると本体との固定ができなくなります。

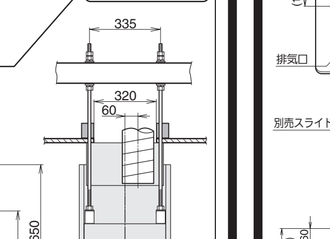
図４－２



3 吊りボルトにナットを取り付けます。（図４－３）

M10 ～ 12 のナットおよびワッシャー（取付作業者側手配）を吊りボルトのマーカー位置まで差し込みます。

図４－３



4 本体を吊りボルトに固定します。（図４－４）

1）本体を持ち上げて４ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側から M10 ～ 12 のワッシャーおよびナット（取付作業者側手配）をしっかりと締め付けます。

お願い

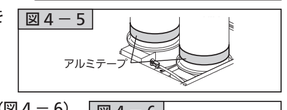
給気用ダクトに給気口を、排気用ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

2）電源プラグを天井裏などのコンセントに差し込みます。
※必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。
※アース（D 種接地工事）を取り付けます。

図４－４

5 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図４－５）

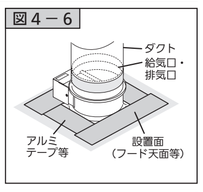
図４－５



■ 給気口・排気口設置面の漏風確認のお願い（図４－６）

給気口・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、給気口・排気口と給気口・排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏風する場合は、給気口・排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

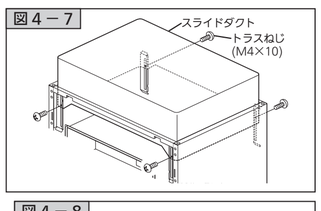
図４－６



6 スライドダクトと本体を固定します。（図４－７）

スライドダクトに付属のトラスねじ（M4 × 10）４本で前後各２ヶ所を固定します。

図４－７



7 フードを取り付けます。

1）フード後側の引掛け桟を本体後側のフランジ切り欠きに引っ掛けます（図４－８ **1** ）。

お願い

フードを取り付ける際は、フード天板部にキズをつけないように注意して取り付けてください。

2）フード前側を持ち上げ、ストッパーを本体の切り欠きに引っ掛けます（図４－８ **2** ）。

3）ストッパーがくぼみに収まるようにフードを右側にずらします（図４－８ **3** ）。

4）「３．本体の準備」手順７ではずした前側のトラスねじ２本を取り付け、後側の固定金具の引掛け部を本体のスリットに差し込み、はずしたトラスねじ（M5 × 12）２本で固定します。（図４－９）

図４－８

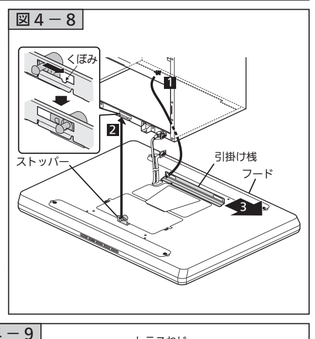
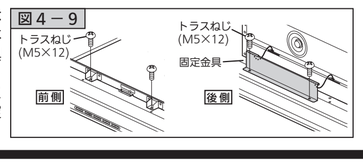


図４－９



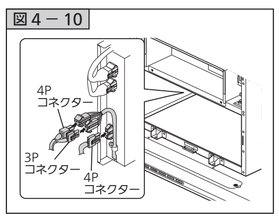
8 コネクターを接続します。（図４－10）

フードから出ている電気配線のコネクター３ヶ所（4P および 3P/4P）を本体のコネクター（4P および 3P/4P）に接続します。

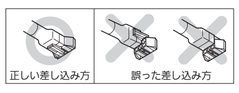
お願い

コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。

図４－10



コネクターを挿入する場合



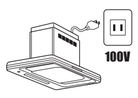
9 誘導カートリッジ、ベルマウス、オイルパック、整流板を取り付けます。

「３．本体の準備」で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

5．電気配線

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100 V以外では使用しないこと（使用禁止）
  火災・感電の原因になります



- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること（アースを取り付ける）
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

■「４．本体の取り付け」手順４の２）で以下の作業をおこないます。

1）アース（D 種接地工事）を取ります。

2）分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い

- 電源は専用のコンセント（２極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- 「６．試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

6．試運転

⚠ 注 意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと（接触禁止）
  けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■ 前ふた・後ふたは取り付けていない状態で試運転してください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

7．前ふた・後ふたの取り付け

■ ふた上部に給気スリットがある方が前ふたです。

前ふた･後ふたを取り付けます。（図７－１）

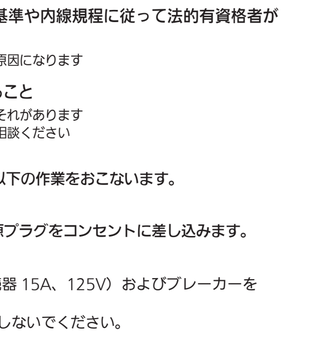
1）ふた上部２ヶ所の引掛け部を本体の切り欠きに引っ掛け、左右４ヶ所のツメを本体のスリットに差し込みます。

お願い

前ふたを取り付ける際は、フード天板部にキズをつけないように注意して取り付けてください。

2）下側２ヶ所を「３．本体の準備」手順５ではずした取付ねじ（M4 × 10）２本で固定します。
※製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープは前ふた・後ふたを取り付けた後、もとの状態に取り付けてください。

図７－１



8．お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

［製造元］ 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺２丁目１－９
TEL 042(768)3754（営業部）